



# 令和4年度 学校評価書（年度）

《学校教育目標》

心打つ振舞いで、自他への思いやりと幸せを芽ぐむ生徒の育成

〈今年度の重点目標〉

「共感」「規律」を基にした「自己決定力」

～全教育活動での「学美」を軸に～



令和5年2月1日（水）大館市立北陽中学校

# V 評価

## ア 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

## I 運営・展開

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
「ゆるぎない学校の創造」へ、旅路をともに歩む職員集団「チーム北陽」が機能している。保護者・地域とのつながりを強化し、地域で鍛える振舞いの実践が行われている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	学校と家庭、地域との関係性が良いことが伝わってきた。学校経営の方針が明確で、それが職員・生徒・家庭・地域にも浸透・周知されている。それを具現化するための教職員のシステムも効率的であり、情報共有の手立てもなされている。「チーム北陽」というまとまりが感じられる。地域活動は学校だよりで広報されており地域住民も学校の情報を得ているが、実際には感染防止のため来校できずにいると思う。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	北陽中として目指すところが、教職員にも生徒にも浸透している。「一人たりとも置き去りにしない」覚悟が感じられ、実際にそのように取り組んでいるのはすごいことである。主任会に指導部長会を加えて隔週で開催するなどの工夫により、組織としてより共通理解・共通実践が進み、組織としてより機能していると感じた。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>(1)(2)について:これまでの主任会に、新たに指導部長会を加え隔週で実施することによって、組織の縦と横が機能的に連携でき、共通理解・共通実践が進んでいると感じている。今後は、会に頼らず日常的な連携によって組織がより活性化するように意識して運営に努めていく。チーム北陽としてよりスムーズな運営ができるよう、機構や組織については随時見直しを提案したり、意見を求めたりしていく。</p> <p>(3)について:生徒、保護者の数値が大きくダウンしている。昨年度この項目について評価委員からいただいた助言をもとに、地域とのつながりの大切さや活動の意義について力を入れて指導し改善に努めたつもりであったが、このような結果となってしまった。数値の特徴として、3年生に比べて1・2年生の評価が低いことが挙げられるが、これは今回のアンケート全般に見られる傾向であった。各学年の発達段階や実態に合わせ、育てたい生徒像を明確にして事前に生徒にも伝え、実践後は成長ぶりをしっかりと認め保護者へも意識的に発信していく。活動そのものについてもマンネリ化打破のため見直ししていく。</p> <p>(4)について:市費による物品購入や修繕について、校長の助言を受けながら予算を請求して獲得し、計画的に執行している。私費会計も、昨年度の実績や生徒の実情に応じて予算を配分して執行している。いずれも教育活動の効果を高めているという教職員の実感がある。会計処理については、昨年度末のPTA役員による監査結果を踏まえ、学校事務担当者を中心として適正に処理している。</p>			
	<p>(1)(2)について:校務分掌の見直しと変更、主任会と指導部長会の実施により、円滑な運営が図られている。実務レベルでの実践強化と日常的な連携を目指し、企画・調整部主催による「学担ミニ研修会」や、ランチミーティングでの「学担会」を新たに実施する。</p> <p>(3)について:地域防災活動やラジオパーソナリティの活動の実践から、生徒の評価は前期よりも高くなっている。夏休み中に大雨被害のあった地区に、約20名の北陽中生・職員が災害ボランティアとして参加したことは、これまでの地域活動の推進の成果であると考えている。感染症拡大時に行った学年通信のメール配信に対し保護者から肯定的な意見が寄せられたことから、今後の諸通信の発出方法について検討する余地があると考えている。学校報全戸配布についても、生徒や地域の実態や課題を踏まえ、これまでのやり方を見直す必要性を感じている。</p> <p>(4)について:複数の目によるチェック機能を生かして適正に処理している。部活動の地域移行に伴う部活動改革、中学校体育大会の変更を受け、次年度の私費会計について今年度中に検討する。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織の活性化	(1) チーム北陽の在り方	運営機構や組織の見直しによる活性化	3	3
	(2) 校務部及び学年部の効果的な連携	隔週の指導部長会と主任会による共通理解・共通実践の強化		
2 地域の教育力の活用	(3) 諸通信の発行と地域活動の推進	学校報全戸配布と地域活動推進による地域とのつながり強化	3	3
3 適切な予算運用	(4) 計画的な予算執行と適正な会計管理	教育活動の成果を高める予算配分・予算獲得と計画的な執行	4	4

### [1] に関連するデータ

【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員

【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:おおむねよい 2:やや不十分 1:不十分

#### (1) チーム北陽の在り方

- 本校教育目標「心打つ振舞いで自他への思いやりと幸せを芽むむ生徒の育成」の達成度は現在のところどれくらいと感じているか。
- 運営機構や組織の見直しによる活性化が図られているか。

R4年度	R4前期	増減
3.3	3.3	± 0.0
3.9	3.6	+ 0.3

#### (2) 校務部及び学年部の効果的な連携

- 隔週の指導部長会と主任会が、共通理解・共通実践につながっているか。

R4年度	R4前期	増減
4.4	4.1	+ 0.3

### [2] に関連するデータ

#### (3) 諸通信の発行と地域活動の推進

- 学校報の全戸配布や、防災活動などの地域活動によって、地域とのつながりが深まっているか。
- 学校報全戸配布と地域活動の推進によって、地域とのつながりが強化されていると感じるか。
- 学校報全戸配布と地域活動によって、地域とのつながりが強化されているか。

R4年度	R4前期	増減
4.2	4.0	+ 0.2
3.4	3.6	- 0.2
4.2	4.5	- 0.3

### [3] に関連するデータ

#### (4) 計画的な予算執行と適正な会計管理

- 予算配分・予算獲得と計画的な執行により、教育活動の成果が高まっているか。

R4年度	R4前期	増減
4.3	4.2	+ 0.1



←FMラジオおおだて



沼館地区災害ボランティアに有志が参加



冬の地域防災活動

## ア 学校運営の状況

### II 企画・調整

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒の振舞いを鍛えて「心」を動かす創造的な企画がされ、実態に応じた調整が図られている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	生徒のヒアリング、授業の様子を見ても、北陽中が目指すところの「振舞い」が自覚され、実現に向かっている。学校側の意図や思いが十分に生徒に伝わっている。前期は、行事の縮小、部活動の休止など教育活動を自粛せざるを得ない状況もあったと思うが、後期は、北陽中祭等の行事を通して、生徒の活躍、成長ぶりを発信してくれることを期待する。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	学校運営の企画・調整が効果をなし、それが運営・展開に連動して生徒の姿として具現化されている。1・2年生は、3年生の振舞いに影響を受けながら、3年間かけて、どんどん成長できる学校である。そこには、教職員の教育にかける熱量を感じる。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○(5)に関して、昨年度前期より数値が下がっていた。新しい先生方にも見通しがある日課や会議の提案や調整が不十分であったと考えられる。コロナ対応を含めて、誰もが安心して活動できる先を見通した提案を行っていきたい。</p> <p>○(6)に関して、生徒や教職員は高評価であった。生徒の頑張る姿や成長していく姿が伝われば、保護者の評価も上がっていくと考えられる。今後は、学級だけでなく、学年集会や学年通信などを通して、行事のねらいや教師の思い、生徒の頑張りをもちと発信する必要がある。教師の声掛けや仕掛けを工夫し、生徒の内面から揺さぶる取組を行っていき、心動かす学校行事を創っていきたい。</p> <p>○(7)に関して、未だ、学びの土台になる「規律」「共感」における指導が中心となっている段階である。今後は、「見方・考え方を働かせて、自ら深い学びを実現させる生徒の育成」を目指し、学校経営計画に示した共通実践事項の具体について研修する機会を意図的に設定していきたい。</p> <p>○(8)に関して、昨年度までと比較すると、授業と学校生活での学びを往還させようとする教師の意識が感じられた一学期だった。特に、授業や運動会、集会等での3年生の振舞いに、教師のこれまでの指導の成果が現れた。今後は、日々の授業や活動を見合う学美ツアー、研究授業などを通して、生徒の姿を基に教師の指導について振り返る機会を大切に、できていることを価値付けたり、課題を洗い出したりして、次の指導につなげたい。</p> <p>○(5)に関して、前期より数値が上がった。週案の早めへの提案や定期的な主任会・指導部長会などが、見通しのある提案につながったと考えられる。○(6)に関して、生徒の数値が上がった。練習期間の短い中であつたが、合唱コンクールや学校祭、小中交流会などの学校行事を生徒自身で創り上げたという経験が大きい。学校報や学年通信等を通じて、生徒の頑張る姿や成長していく姿を保護者に伝える取組は継続していく。また、行事のねらいを教師同士で再確認し、役割を越えた動きや教師の声掛けや仕掛けをより工夫していく。</p> <p>○(7)に関して、指定訪問や市教育研究会での研究授業、県外からの視察での提示授業等において、全職員で教材研究に向かう研修の機会に恵まれ、授業改善がなされたことが要因の一つと考えられる。12月は教務と研究のタイアップ企画として、経験の浅い学級担任の疑問について経験豊富な教師を交えて学び合うミニ研修会を行った。今後も必要な時に短時間のミニ研修会を企画する。</p> <p>○(8)に関して、数値は変わっていないが、全職員で生徒の「気付き→思考→判断→表現→行動」を生む問い掛けを重ねてきた。その成果があり、上級生が自らの姿で下級生に学美を示したり、生徒が発案・企画し活動に取り組んだりする姿が見られた。今後も北陽の強みである生徒の主体性を高めていけるよう、生徒が自らの頑張りを成長を自覚したり、新たな気付きや意欲をもったりする問い掛けの工夫を全教育活動で行う。</p>			

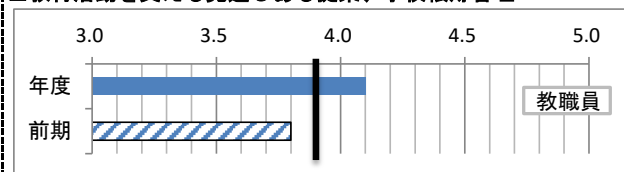
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 校務アジャストメント	(5)教育活動を支える見通しある提案、学校帳簿管理	先を見通した早めの全体計画と予定の提示、学校帳簿作成手順の周知と管理	3	3
	(6)心を動かす学校行事の工夫	指導部と連携し、心を育てる行事の工夫		
5 経営課題のクローズアップ	(7)「深い学び」の共通理解と具体的実践	生徒の「？」や「！」を引き出し、学びの深まりや定着、次の学びへとつなぐ教材研究	3	3
	(8)「学美」の充実	各指導部との連携による全教育活動での「学美」を意識した指導の工夫		

○学校評価アンケートの数値から (○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価[5:大変よい～3:おおむねよい～1:不十分]

(太線は、アンケート項目全体の年度の平均値 ○生徒4.2 □保護者3.4 ■教職員3.9)

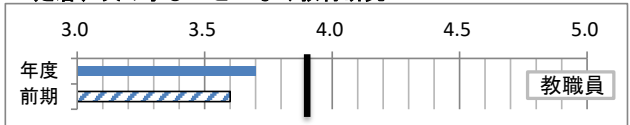
【(5)に関連するデータ】

■教育活動を支える見通しある提案、学校帳簿管理



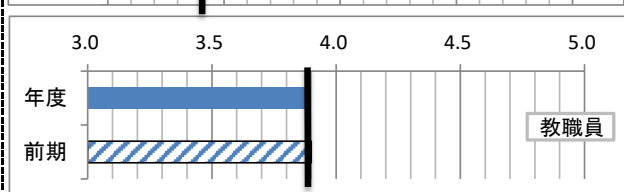
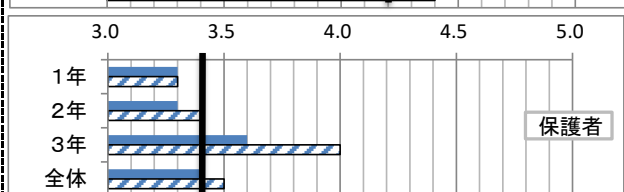
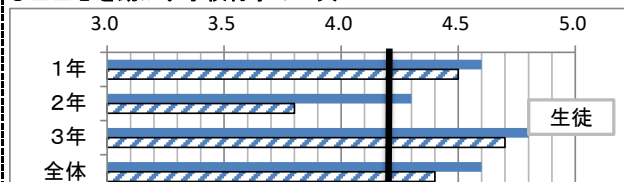
【(7)に関連するデータ】

■生徒の「？」や「！」を引き出し、学びの深まりや定着、次の学びへとつなぐ教材研究



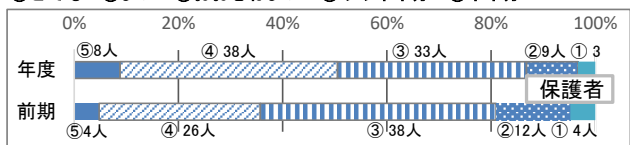
【(6)に関連するデータ】 上段:年度 下段:前期

○□■心を動かす学校行事の工夫

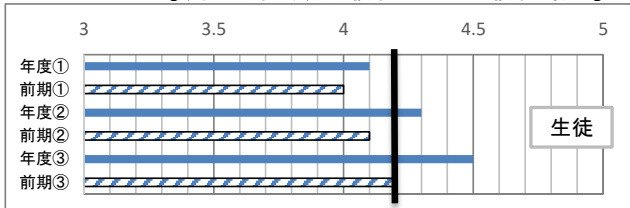


□生徒の「疑問」や「気付き」を引き出す工夫がある授業

⑤とても ④よい ③おおむねよい ②やや不十分 ①不十分

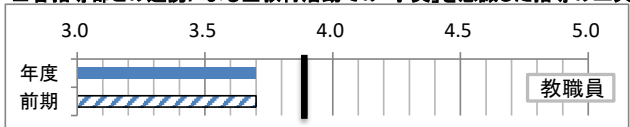


○学びが深まる疑問や驚き、気付きがあるか①、生徒の思いや問いが授業に生かされているか②、学びが深まり、次の授業へとつながる授業内容か③



【(8)に関連するデータ】

■各指導部との連携による全教育活動での「学美」を意識した指導の工夫



イ 生徒の状況

Ⅲ 主体的学習態度・基本的学習習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒が主体的に授業に臨み、基本的学習習慣と確かな学力を身に付ける「学びかた」の指導に努めている。	前期	おおむね良好	基本的な学習習慣が定着しており、学びに向かう姿勢もできている。中学生でも、積極的に挙手し互いの意見に反応できている。今後は、タブレットを現在の北陽中の学びかたにどう効果的に取り入れていくのか、が課題となる。活用しながら、よりよい生かし方を模索してほしい。
	年度	おおむね良好	どの授業も生徒の集中力が感じられ、難しい内容でも答えたり説明したりと、みんながついて行っている印象である。また、小学校からの学習習慣が継続している良さも見られた。教職員の評価は厳しめであるが、それだけ授業に対して向上心があり、妥協を許さない姿勢であると受け止めた。授業中の生徒の姿にもう少し活気や元気があれば、さらによいと思う。
自己評価の概要と学校の改善策	○(9)に関しては、生徒の数値は高く職員の数値も昨年度前期よりも高くなっている。日常から先生方が学ぶ意義や必要性を生徒に伝えたり、生徒の関心や意欲を高める仕掛けづくりを行ってきているからだと思う。二学期以降も継続して、興味・関心を高め、学ぶ必要と目的意識を高める仕掛けづくりを行い、生徒の学ぶ意欲を高めていきたい。		
	○(10)に関しては、生徒の問いを生かした学習展開の工夫の数値はまずまずだが、学びの定着を図るまとめと振り返りの職員の数値が低くなっている。ただ、生徒の数値(4.1)を見ると、まとめと振り返りの時間は確保されていることがわかる。二学期からは、学んだことを生活に生かしたり、次の学びにつなげたりするなどの視点を与え、キャリア発達につながる振り返りの中身を充実させていく。		
	○(11)に関しては、生徒・保護者・職員ともに3点台の数値であった。一学期、家庭学習やドリル学習での個の生徒に応じた指導を継続してきたことが生徒の数値(3.7)からうかがうことができるが、生徒の自学力を育成させるには、さらに生徒それぞれに寄り添い支援していく必要がある。二学期は、学年の職員皆でPUNノートの中味を見て、質の向上を促していく。ドリルは生徒の実態に応じたコース設定を行い、スモールステップを生かした定着を図る。		
	○(9)に関して、生徒の数値は前期よりも向上している。学ぶ意義を明確にして授業を進めてきた成果である。教職員の数値が変わらなかった点は、生徒が学びに向かう仕掛けづくりに関して、生徒の実態に即してさらに工夫や改善を目指すという意識から考えると考えられる。生徒自らが学びに向かう姿勢を維持し、次への意欲につながる働きかけをしていきたい。		
○(10)に関しては、前期の数値に比べ生徒も教職員も向上している。これは、授業で生徒の「？」や「！」を生かした学習展開を工夫してきたことの結果である。まとめや振り返りの時間については生徒の数値は向上しているが教職員は変わらなかった。今後さらに学びの定着とキャリア発達を目指すために、一時間ごとの振り返りだけでなく、一つの単元などを通した振り返りも充実させていきたい。			
○(11)に関しては、生徒・職員ともに向上している。二学期にPUNノートへのアドバイスを学年の職員皆で行ったことにより、中身を考えて学習する生徒が増えた結果だと考えられる。また、定期テストの挑戦カードにPDCAサイクルを生かした項目を入れて自学力の育成に取り組んだところ、先を見通して学習に向かうとする生徒とその段階まで達しない生徒の意識の差が見られた。立志ノートを活用した日常的な家庭学習の習慣形成から促していきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 学びにおける振舞い	(9) 「学びかた」の指導	学ぶ意義や必要性を明確にし、生徒自らが学びに向かう仕掛けづくり	3	3
7 学びの定着と深まり	(10) 授業の充実	生徒の問いを生かした学習展開の工夫	3	3
		学びの定着を図るまとめとキャリア発達を促す振り返り		
	(11) 自学力の育成	個に応じた家庭学習や放課後ドリル学習の工夫		

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:おおむねよい 2:やや不十分 1:不十分}

[6に関連するデータ]

(9) 「学びかた」の指導

○学ぶ意義や必要性を理解して、自らが学びに向かっていますか。	R4年度	R4前期	増減
■学ぶ意義や必要性を明確にし、生徒自らが学びに向かう仕掛けづくりがなされているか。	4.2	4.1	+0.1
	3.6	3.6	±0.0

R4年度	R4前期	増減
4.2	4.1	+0.1
3.6	3.6	±0.0

[7に関連するデータ]

(10) 授業の充実

○学びが深まる疑問や驚き、気付きがありますか。	R4年度	R4前期	増減
○生徒の問いや疑問が授業に生かされていると感じますか。	4.1	4.0	+0.1
□授業では、お子さんの「疑問」や「気付き」を引き出す工夫がされ、力が付いていると感じますか。	4.3	4.1	+0.2
■生徒の問いを生かした学習展開が工夫されているか。	3.2	3.2	±0.0
	3.8	3.6	+0.2

R4年度	R4前期	増減
4.1	4.0	+0.1
4.3	4.1	+0.2
3.2	3.2	±0.0
3.8	3.6	+0.2

○まとめと振り返りが実施されていますか。	R4年度	R4前期	増減
■学びの定着を図るまとめとキャリア発達を促す振り返りがなされているか。	4.4	4.1	+0.3
	3.4	3.3	+0.1

R4年度	R4前期	増減
4.4	4.1	+0.3
3.4	3.3	+0.1

(11) 自学力の育成

○家庭学習へのアドバイスやPUNの方法を、先生方は工夫してくれていると感じますか。	R4年度	R4前期	増減
□一人一人に応じた家庭学習の仕方を助言したり、放課後のドリル学習の内容や方法を工夫したりしていると感じますか。	4.1	3.7	+0.4
■個に応じた家庭学習への助言、放課後ドリル学習の方法、内容等の工夫がされているか。	3.1	3.1	±0.0
	3.7	3.4	+0.3

R4年度	R4前期	増減
4.1	3.7	+0.4
3.1	3.1	±0.0
3.7	3.4	+0.3

イ 生徒の状況

IV 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

学校の状況		自己評価A		学校関係者評価		学校関係者評価委員のコメント	
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、安全・安心な生活、健全な日常を実現する「暮らしがた」の指導に努めている。	前期	良好	良好	感染症防止について、養護教諭を中心に委員会活動や生徒の主体性を引き出す指導ができています。クラスターが発生していない状況は、生徒が日常的に感染防止対策を徹底できているからだと思います。生徒指導や安全指導についても、教職員が朝早くから校門や通学路についてしっかり指導しており、生徒も教職員も安全に対する取組がよい。保護者や地域への規範意識や安全意識も学校から発信し啓蒙しています。			
	年度	良好	良好	生徒が学校生活や地域の活動、ボランティア活動へ主体的な姿勢、態度で向かっていることはヒヤリングから十分伝わります。北陽シンポジウム、パーカープロジェクト等を通して、校則をはじめ自分たちの学校生活をより良くしていくことを実践し、具現化している。1年生が3年生の姿に学んでおり、自らを成長させている。社会を変える存在へと成長することが期待される北陽中生の姿である。			
自己評価の概要と学校の改善策	(12)について：昨年度、校則について「安心・安全」「地域に誇れる振舞い」という視点から見直しを図る集会を行った。1学期末に、生活向上委員会からアンケートを採り、おおむね現在の校則通りでよいという結果だった。しかし、徹底できていないところが見られるので、2学期以降は生徒同士による声かけができるよう仕掛けていきたい。また、危機回避能力育成と事故防止対策については、避難訓練や地域防災会議を通して、自分の命は自分で守る、助けられる人から助けられる人へ、という意識の高揚を図った。						
	(13)について：「北陽ライフスタイル」を各教室に掲示すると共に、保健委員が帰りの会で説明したり、各委員会ごとの活動割当を確認したりするなど、生徒が主体的に活動できるよう教師がサポート側に回って働きかけることができた。また、集会活動では、ソーシャルディスタンスを取ったり、コロナの感染状況に応じて授業でのグループ活動を制限したりして、教師側からも積極的に呼び掛けを行ってきた。今後も根気強く継続していきたい。						
	(14)について：例年、5月と11月に行ってきた教育相談を、4月にも実施した。特に、1年生は中学校に入学して間もない頃で、学校生活や友人関係で悩みを抱える時期だと捉え、積極的に生徒理解や問題把握できるようにした。未然防止や早期発見に向けて、日頃から小さなサインを見逃さないことや、些細なことでも全職員で共有できるように組織的に対応していきたい。						
	(12)と(13)について：日々の生活や行事等への向かい方など、北陽中生らしい振舞いを生徒に適宜問い掛けながら規律ある集団作りを働きかけてきた。11月の2学期末PTAで行った『北陽中シンポジウム』では、「私たちは、情報通信機器を使ってる？使われている？」というテーマの下、外部講師を招いて時間やルールを守ることの大切さやネット上で知り合った人との関わり方、情報をよりよく生かす発信していく大切さなどについて意見交流した(下記①参照)。教師はサポート役に徹し、代表生徒を中心に全校で意見交流したことで、情報通信機器をよりよく活用していく意識を高めていた(下記②参照)。3学期には「情報通信機器の使い方〇ヶ条」という努力目標を全校で話し合い、自分たちで律していくこととする気概を育てていきたい。また、北陽パーカープロジェクトも1・2年生を中心に活動を進めてきた。健康管理や身だしなみなど、自分事として捉えていく機会を意図的に設定していきたい。感染症対策については、教師による呼び掛けと生徒が自発的に対策を徹底していけるような仕掛けと、バランスを考えて指導していきたい。						
(14)について：生徒支援担当を中心に、組織的な指導・支援を心掛け、日々の生徒観察やアンケート活用など多面的な生徒理解を図り、友人関係や学業、進路について親身になって個別対応したり、丁寧な全体指導を行ったりしてきた(下記③参照)。3年生は進路実現に向けて不登校傾向だった生徒の登校日数が増えたり、将来の夢に向かって進む雰囲気が高まったらしい。1・2年生も進級に向けてリーダー性を高める手立てを講じたり、生徒の頑張りを様々な場面で賞賛したりする機会を意図的に設定してきた。今後も、進学や進級に向けて、各学年の実態に応じた施策を講じていきたい。							

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 規律ある学校生活	(12) 安全・安心で、規律ある集団の「暮らしがた」の指導	生徒による「暮らしがた」の見直しと充実 危機回避能力育成と事故防止対策	3	3
9 心身の健康の保持増進	(13) 健全な生活習慣の育成	安定した生活習慣と感染症予防対策	4	4
10 教育相談の充実	(14) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解	多面的な生徒理解と組織的かつ効果的な教育相談の研修と体制づくり	4	4

(○生徒 □保護者 ■教職員)

【8に関連するデータ】

※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:おおむねよい 2:やや不十分 1:不十分]

(12)安全・安心で、規律ある集団の「暮らしがた」の指導

- 北陽中生自身が「暮らしがた」を見直し、規律ある学校生活の充実がはかられていますか。
- 災害や事故から身を守り、自分の命を自分で守る力が身に付いていますか。
- 安心・安全な生活のための事故防止対策が取られ、お子さんに危機回避能力が育っていると感じますか。
- 生徒によって「暮らしがた」が見直され充実が図られているか。
- 安心・安全な生活のために、生徒の危機回避能力を育成し、事故防止対策が取られているか。

R4年度	R4前期	増減
4.0	3.8	+ 0.2
4.4	4.2	+ 0.2
3.4	3.8	- 0.4
3.6	3.6	0.0
3.9	4.1	- 0.2

【9に関連するデータ】

(13)健全な生活習慣の育成

- 感染症予防対策を実施し、望ましい生活習慣が身に付いていますか。
- 学校で感染症予防対策が取られ、お子さんに安定した生活習慣が身に付いていると感じますか。
- 健全な生活習慣の育成のために安定した生活習慣の確立と、感染症予防対策が取られているか。

R4年度	R4前期	増減
4.2	4.1	+ 0.1
3.8	4.0	- 0.2
4.2	4.3	- 0.1

【10に関連するデータ】

(14)日常的・積極的な教育相談と生徒理解

- 教育相談やカウンセリングなどで、先生は親身になって対応してくれますか。
- 多面的な生徒理解と、組織的かつ効果的な教育相談の研修と体制づくりがなされているか。

R4年度	R4前期	増減
4.4	4.2	+ 0.2
4.2	3.9	+ 0.3

①北陽中シンポジウムの様子



②生徒の振り返り用紙

シンポジウムでは、SNSなどのメディアの使い方がよくわかってきたこと、時間や決まりごとのほかにも知らない人と顔色を見ながら連絡をとることも相手の気持ちや気分が分かってきて良かったこと、思っていたよりも事件は起こる可能性があること、使い方はとても大切だと思えるようになったこと。

私は、生活向上委員会が毎月直接報告を各クラスとして紹介し、定期的に意見を述べ、自分自身も時間を有効に活用して意識し、自分から生活していけるようになったこと、意見を多く聞けること、自分自身の経験の中で自分の言葉で自分の意見を伝えること、いろいろな意見や考えを聞いて、自分自身で考えたいと思いました。

③アンケート結果を生かす

★アンケート結果を基に、各学年で情報共有、即時対応、報告の徹底をお願いします。

番号	質問内容	男	女	番号	質問内容	男	女
1(1)	あなたらしいのを受けたいかあるか	ある		3(1)	学校が楽しい		
1(2)	そのいいのほまふれいているか	続いている		3(2)	授業がよくわかる		
1(3)	なれよ、いじめられたか	いじめられた		3(3)	そののうらやまがずっと続くか		
1(4)	どんなにいいのを受けたいか			3(4)	クラスのみんなで何かするのほまふれいているか		
1(5)	いじめられたかあるか	ある		3(5)	休み時間が楽しい		
2(1)	いいのほ、どんなことかあってもいいか	いい		3(6)	授業(授業)の時間		
2(2)	なれよ、いじめられたか	いじめられた		3(7)	クラスのみんなが何かするのほまふれいているか		
3(1)	【新】楽しくない			3(8)	おもしろい授業は、クラスのみんなが何かするのほまふれいているか		
3(2)	【新】楽しくない						
3(3)	【新】楽しくない						
3(4)	【新】楽しくない						
3(5)	【新】楽しくない						
3(6)	【新】楽しくない						
3(7)	【新】楽しくない						
3(8)	【新】楽しくない						

アンケート結果を分析し、気になる生徒をピックアップして、個別に対応したり全体指導を生かしたりする。



## イ 生徒の状況

### V 思いやりの心、たくましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
居心地のよい集団を実現する「集いかた」の指導、仲間と心をついにし、目標に立ち向かう「挑みかた」の指導に努めている。	前期	おおむね良好	良好
	年度	おおむね良好	良好
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○(15)に関しては、学級の短学活で日直がスピーチをし、それに対して質問や反応したり、学年で班対抗のクイズをしたりして、個のよさが発揮できる場面を設定している。また、生徒の自発的な行為を紹介する「ちよいボラ」発表などでお互いのよさを認め合う場面を意図的に設定した。</p> <p>○(16)に関しては、全体的に見ると生徒それぞれが創意工夫を凝らし、それを教師がサポートする形で行っていたが、責任をもって行う人とそうでない人の差が大きかったため、その差をなくす工夫を考えたい。</p> <p>○(17)に関しては、運動会で、各学級の中で上手に役割分担がなされ、各リーダーを中心に全力で向かうことができた。二学期の合唱コンクールや北陽中祭に向けて、プレ発表会やF集会などでねらいや学級の目指す姿を話し合わせて行事に向かわせていきたい。</p>		
	<p>○(15)に関しては、生徒の自発的な行為を紹介する「ちよいボラ」発表などでお互いのよさを認め合う場面の設定を継続した。自己開示とそれを受け入れ認めるような場面の設定が学級や学年で差があるので、学担会などで各学級の取組を紹介したり、意見を出し合ったりして増やしていけるようにする。</p>		
	<p>○(16)(17)に関しては、生徒会活動や学校祭の準備で、3年生が中心となって自発的に活動する場面が多く見られ、1、2年生も3年生を支えながら一つの目標に向かっていくことができた。生徒会活動は後期スタート直後の取り組み方に課題が見られたため、各学年毎に集団力を高められるような仕掛けを考えていきたい。自己評価Bの部分は前期と年度の生徒アンケート結果の比較から、3年生は高い数値で変わらず、1、2年生の数値に大きな上昇が見られたことから、生徒たちは、行事や生徒会活動に自主的に取り組めるようになったことを実感できていると考えられるため4とした。生徒たちは感動や達成感を実感しているが、保護者の数値が上がらないため、子どもたちの活動や成長のようすが伝わるような手段を考えていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
11 より良い集団生活を目指す学級・学年活動	(15) 個のよさが発揮される学級・学年づくり	共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動の実践	3	3
12 集団力を高める自主的・自立的諸活動	(16) 創意に満ちた生徒会活動の充実	学校経営の一翼を担う、創意に満ちた生徒会活動	3	4
	(17) 仲間と心をついにし、目標に向かう「挑みかた」の指導	三大大行事に対する、生徒の目の色を変える仕掛け		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[11に関連するデータ] ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:おおむねよい 2:やや不十分 1:不十分]

(15) 個のよさが発揮される学級・学年づくり	R4年度	R4前期	増減
○個のよさが発揮されるような学級活動が行われていましたか。	4.3	4.0	0.3
■共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動の実践に努め、個のよさが発揮されていたか。	3.6	3.6	0.0

[12に関連するデータ]

(16) 創意に満ちた生徒会活動の充実	R4年度	R4前期	増減
○集団力を高めるような、創意ある生徒会活動が行われていましたか。	4.2	4.0	0.2
□生徒会活動は、集団力を高めるような創意ある活動になっていますか。	3.6	3.6	0.0
■学校経営の一翼を担う、創意に満ちた生徒会活動が行われているか。	3.6	3.8	-0.2

(17) 仲間と心をついにし、目標に向かう「挑みかた」の指導

	R4年度	R4前期	増減
○行事では、仲間と心をついにし目標に向かって取り組み、感動や達成感を味わえましたか。	4.6	4.4	0.2
□学校行事では、生徒の目の色を変える仕掛けがなされ、心を育てる工夫がされていますか。	3.4	3.5	-0.1
■三大大行事に対する、生徒の目の色を変える仕掛けがなされているか。	4.2	4.1	0.1



北陽太鼓演奏



全力で総体に向かうための激励会



体育委員主催のフリースロー大会



新リーダーを決める立会演説